

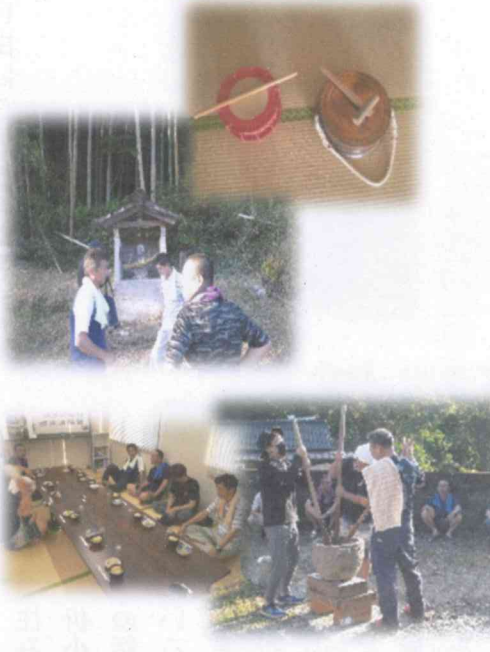
どのした淵

【田の神講 賑々しく開催】

10月3日(日)17戸の参加により開催されました。今年度は2班が担当でした。準備からご苦労様でした。

生殖・出産・豊作の神として崇められる田の神ですが、高峯の田の神さあはシキが極端に大きく、網目も鮮明に刻まれています。顔面、両手は明治初期の廃仏毀釈により壊されたのではないかとされています。

昔は春・秋2回の講が行われ、秋の講の時は家々を持ち廻りしていたそうですが、昭和60年秋に現在地に堂を造り安置されました。



発行責任者

高峯公民会長

三 腰 善 行

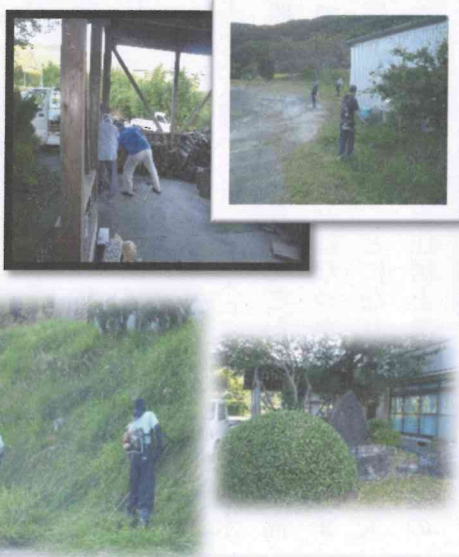
090-1089-9432

11月1日発行

【区林業集会所 清掃作業に従事】

10月10日7時から、当番14人により区林業集会所の除草・清掃作業に従事していただきました。要因になられた皆さんご苦労様、そしてお疲れさまでした。

この作業は区の行事で、年3回区内の公民会の持ち回りで、館の清掃に従事するものです。今年は高峯が割り当てられました。早朝より作業に取り掛かったため、日照前に概ねの作業が終わりしました。除草のみならず、焚き物の整理や、樹木の剪定までしていただき集会所周りもサツパリになりました。ありがとうございます。



【資源ごみ 出し方注意】

過去2回、資源ごみ(空き缶)が回収されなかった(放置される)事例が発生しました。1回目は指定袋に入れずに透明の袋で出してあったため回収されなかったものです。2回目は空き缶をバラで資源ごみ回収かごの中に入れてあったため回収されず、空き缶はそこあたりにほいた投げてあったそうです。回収してもらうには、**空き缶は指定袋に入れて出す。**回収かごの中には入れないという事です。以前回覧で促した畔波トタンも、結局誰も取りに来なかったため、自宅に持ち帰り業者をお願いして回収してもらいました。自分一人ぐらいと思っていまいませんか!その一人のために公民会全体のマナーが疑われているのです。ごみステーションは皆がマナーを守って、綺麗に維持されなければなりません。究極は限りなくごみゼロに近づけることです。そのためには可燃ごみを減らし、リサイクルすることです。

1 生ごみは生ごみバケツへ...可燃ごみで出したらいけません。水切りをして生ごみバケツに入れてください。生ごみバケツには365日24時間いつでも出せます。

2 その他紙の分別徹底...大概の紙はその他紙になります。

3 その他プラスチックの分別徹底...リサイクルマークの表示されているものは全て資源ごみに出して下さい。安易にごみ箱に捨てるのではなく、今一度表示を確認して資源ごみの日に出しましょう。

この**3つ**を徹底するだけで、可燃ごみは断然少なくなり、運搬も楽になりますヨ!!

【ふれあい交流ログハウス】

先月号で紹介したログハウスを写真で紹介します。自由にご利用ください。



【ふるさとの史跡散歩】

現王山神

昔、津田万右衛門、笹野道清、泊野現王という兄弟三人が、どこからともなくやって来て現王は泊野に、道清は南瀬に、万右衛門は藤川の津田に住みつき、その子孫はこれを神として祀ったという。折小野には津田万入、笹野道節、折小野五郎七の三人の話が伝わっている。また、次のような話が伝わっている。

昔、現王様は京都から下って来られた神様で、出水の折口に船でお着きになり、そこから山を越えて高城の吉川でしばらくお休みになった。そこでお住まいになる場所を選ばれることになり、高い山から矢を放ちその矢が落ちた所を住居と決められた。この矢を放たれた山を「矢放嶽」（やはすだけ）という。

現王様は矢の飛んだ方に進まれたが、途中お疲れになったので御輿をおろし休息された。それでここを御輿野と呼ぶようになり、いつの間にか「三腰野」となったという。やがて高峯まで進まれた時、鷹狩りをして楽しまれた。それで鷹峯（高峯）というようになった。そうするうちに、やっと矢放嶽から射られた矢が止まった所を見つられて居住の地とされた。矢が止まった所というので留野（泊野）というようになったとも、あるいは現王様が泊まられたから泊野というようになったという。

現王様にお供したのは、御獵師として津田万入、三俣道悠、高木場の伴犬、御犬付として小田原左京、御犬八匹、御小者として興三、興深であった。

泊野の市野家の祖は、現王様の刀鍛冶として付添って来たといい、白男川の現王園家は現王様の子孫とも、宮田家がそれとも言われる。（官之城史より）

編集後記「田の神やあらむことなり」

『ふるさとの史跡と伝承』のリニューアル編集・製本化に取り組み、年度末までに完成するように頑張っています。

そして、今、思案中の次年度事業は、令和元年6月の第2回関西きらら会時に発行された、遺したい泊野ことば『ひなたぼっこ』の製本化です。企画・編集責任の久木野正志さんに先日お会いし、取り組みについてのご理解を頂きましたので、来年度取り組みたいと考えています。

関西きらら会の皆様が一生懸命集められた泊野ことば・ふるさとを思う熱い情熱を汲みあげるとともに、新たにふるさとの格言的な言葉も折り込みながらグレードアップに努められたらと思います。例えば「いつもどいすだすな」とか「安物買いの銭うつしえ」「朝がんなれ（雷）は晴れがんなれ」等々、親やじさんばっさんから口やかましく言われていた言葉（格言・名言）を網羅したいと思います。

区活性化委員会の取組として各家々に募集用紙を配布し、先祖から伝わるためになる、残さなければいけない多くの言葉を集めたいと思います。思いつくままに書き綴っておいってください。皆さまのご協力よろしくお願いします。